

生計同一関係申出書（遺族認定用）

共済組合受付印

① 請求者の住所、氏名

住所 〇〇市〇〇町 1-2-3

氏名 年金 花子

② 被保険者であった方の住所（亡くなった当時）、氏名

住所 〇〇市△△町 1-2-3

氏名 年金 一郎（①との続柄： 夫 ）

1. 別世帯になっていた理由

※①と②が同居していたが、住民票上別世帯になっていた場合に記入

例) 国民健康保険料の計算の都合上、住民票は別世帯にしていた。

2. 同居についての申立（住民票上の住所が異なっていた理由）

※①と②が同居していたが、住民票上の住所が別になっていた場合に記入

例) 一郎の転勤に伴い、一郎の転勤先で同居していたが、一時的なものであるため、花子の住民票の住所は異動させていなかった。

※①と②が同一住所であったことが確認できる郵便物や公共料金の領収書等を添付してください。

以下の3～5については、①と②が別居していた場合に記入してください。

3. 別居していた理由

※①と②が別居していた場合に記入

例) 一郎は病気療養で施設に入所していたため、別居していた。
例) 一郎は単身赴任していたため、別居していた。

4. 経済的援助についての申立 ※①と②が別居の場合に記入

㊦ ②から①に対する経済的援助の有無（あり・なし）

㊧ 上記㊦で「あり」の場合にはその回数（年・月約 〇 回程度）

㊨ 上記㊦で「あり」の場合にはその金額（年・月約 XXX,XXX 円程度）

㊤ 経済的援助の方法 (**送金** ・ その他)

㊦ 経済的援助の内容

例) 一郎は病氣療養のため施設に入所していたが、一郎の年金や貯蓄から生活費をもらい、花子(妻)が生活していた。
例) 一郎から毎月〇〇万円の仕送りを受けて、花子(妻)は生活していた。

※次の書類を添付してください。

・送金による経済的援助を受けていた場合 そのことを証明する預金通帳等の写し

5. 定期的な音信・訪問についての申立 ※①と②が別居の場合に記入

㊧ 音信の回数 (年 ・ **月** ・ 週 約 〇 回程度 ・ なし)

㊨ 訪問回数 (年 ・ **月** ・ 週 約 〇 回程度 ・ なし)

㊩ 音信・訪問の内容

例) 花子が一郎の施設へ月〇回見舞いに行くとともに、身の回りの世話をしていた。
例) 一郎が月〇回単身赴任先から自宅(花子の住所)へ帰省していた。

私は、上記のとおり上記②の者と生計を同じくしていたことを申し出ます。

全国市町村職員共済組合連合会理事長 様

平成 〇 年 〇 月 〇 日

請求者氏名 **年金 花子**

年金 ㊤

(第三者による証明欄)

上記の内容は、事実に相違ないことを証明します。
また、私は上記①と②の者の民法上の三親等内の親族ではありません。

住 所 **〇〇市〇〇町 5-4-6**

氏 名 **連合会 太郎**

連合会 ㊤

【 請求者との関係
または職名 **民生委員** 】

※ 次のいずれかに該当する場合は、該当する書類を添付してください。

- ・健康保険の被扶養者として認定されていた場合 年金受給権者または配偶者(子)の健康保険証等の写し
- ・給与の扶養手当の対象となっていた場合 年金受給権者の賃金台帳等の写し
- ・所得税法上の控除対象となっていた場合 年金受給権者の源泉徴収票等の写し

※ 必要に応じて、その他の書類の提出をお願いすることがあります。

C-2① (27.10)

次のいずれかの書類を添付する場合は、第三者による証明は省略できます。

- A 健康保険の被扶養者として認定されていたことがわかる年金受給権者または配偶者(子)の健康保険証等の写し
- B 給与の扶養手当の対象となっていたことがわかる年金受給権者の賃金台帳等の写し
- C 所得税法上の控除対象となっていたことがわかる年金受給権者の源泉徴収票等の写し
- D 送金による経済的援助を受けていたことがわかる預金通帳等の写し